

奈良市の世界遺産学習

～奈良で学んだことを誇らしげに語れる子どもの育成を目指して～

奈良市教育委員会

1. はじめに

奈良市は、1300年前に日本の都「平城京」として栄え、今日まで貴重な文化財が数多く守り残され伝えられている。平成10年に8つの資産群が「古都奈良の文化財」として世界遺産に登録された。

そこで、世界遺産をはじめ多くの文化財や伝統文化、自然環境などの価値を子どもたちに伝え、受け継いでいくための心情を育むために、副読本『世界遺産のあるまち奈良』を刊行し、全ての小学校5年生で現地学習を実施した。これが世界遺産学習の始まりである。

現在は、改訂された副読本『奈良大好き世界遺産学習』を小学校5年生に配付し、現地学習も引き続き実施している。

奈良市では、令和3年に第2期「奈良市教育振興基本計画」を策定し、時代の変化に対応しながら、本市の課題を克服するために、基本方針と主な施策を示した。計画では、「生涯にわたり学び続け、他者と協働して未来を切り開く人間の育成」を目標に掲げ、「奈良らしい教育の推進」として世界遺産学習を位置づけ、全市立学校で世界遺産学習に取り組んでいる。

2. 教育目標

◆奈良市の目指す教育

生涯にわたり学び続け、他者と協働して未来を切り開く人間の育成

目指す子ども像

みずから学ぶ子

とことん学ぶ子

つながり学ぶ子

◆奈良らしい教育の推進

◎世界遺産学習を通して地域への愛着を育み、子どもたちのアイデンティティの確立を目指す。また、持続可能な社会の担い手として、地域やグローバルな社会で活躍する人材を育成する。

【世界遺産学習】

- 地域の文化財や伝統文化、自然環境等について学び、それらを守り受け継いできた人々の思いや営みに触れる。
- ICTを活用し、学習したことや自らの考えをまとめ発表する力や、他の地域や海外に住む子どもたちとのオンライン交流を通して、考えたことを行動に移す力等の育成を図る。
- 地域について深く学ぶことを通して、教科、領域を横断した知識や技能を融合し、自ら課題を見つけ論理的思考により解決することができる子どもを育成する。

3. 教育委員会での取組

◆世界遺産学習現地学習

小学校5年生を対象に実施している世界遺産学習現地学習では、副読本『奈良大好き世界遺産学習』を配付し事前事後学習に活用している。当日は、ボランティアガイドの説明を聞きな

がら、本物に触れ、また、それらを守り受け継いでいる人々の思いを知り、主体的に学び行動する機会としている。現地学習を体験した子どもたちからは、「ガイドさんが、1つ1つ優しく詳しく教えてくれて、色々なことが分かりました。」「東大寺が何回も焼けていて、何度も修復されていることを知ったときは驚きました。」などの感想が寄せられた。

本物に触れることをとおして、遺産についての学びを深めるとともに、遺産を未来にのこしていくために自分たちにできることはないかという課題にせまるきっかけとなる現地学習となった。



現地学習の様子

◆世界遺産学習リレー講座

世界遺産学習の充実を図るため、これまでの実践をふまえ、さらに奈良市の世界遺産学習を推進していくために、教員対象の「世界遺産学習リレー講座」を年間6回開催した。今年度は、オンライン5回とともに1回の現地研修を実施した。現地研修では、平城京左京三条二坊庭園を見学し、知られざる遺産の魅力や文化財の現代的な活用などについて研修を行った。



平城京左京三条二坊庭園の見学の様子

◆奈良国立博物館によるオンライン中継授業

今年度は、奈良国立博物館の協力によるオンライン中継授業を市立小学校1校で実施した。奈良国立博物館と各学級がオンラインでつながり、仏像館からライブ中継された貴重な仏像の数々が、手元のタブレット端末に大きく映し出され、子どもたちは、普段は見るのが難しい仏像の表情の細部まで目の前の画面で見ることができた。チャット機能を使うことで、見学中でも随時、質問や感想を投げかけることができ、主体的にオンライン中継に参加する子どもたちの様子が見られた。

◆世界遺産学習学校間交流

今年度は、5つの市立小学校が屋久島や田辺市、京都市といった地域と、学校間交流を行った。市立鼓阪北小学校では、京都市立高雄小学校とオンラインによる交流を行い、互いの地域の魅力や課題について学習したことを発信し合った。相手の地域と自分たちの地域との違いや共通点に驚くとともに、持続可能な地域社会をつくるために自分たちに出来ることは何か、といった学習課題に主体的に取り組む姿が見られた。



学校間交流の様子

4. おわりに

世界遺産学習は、先人たちが守り、受け継いできた世界遺産をはじめとする文化財や地域の遺産、自然環境等について学ぶことを通して、それらを尊重する態度や地域を誇りに思う心情を養うことを目的としている。今後も、様々な側面から奈良や他地域について深く知るとともに、自ら課題を見つけ課題解決ができる子どもを育成し、持続可能な社会の実現に取り組んでいきたい。